

建設マネジメント技術【目次】

- 005 巻頭発言 これからの水資源を考える視点
／国立研究開発法人土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM)
センター長 小池 俊雄

特集 水資源を考える

- 008 流域総合水管理のあり方について
／国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画課 大道 一歩
水資源部 水資源計画課 柴田 伸亮
- 013 令和7年度冬渇水について
／国土交通省 水管理・国土保全局 水資源部 水資源計画課 水循環推進調整官 猿渡 一樹
- 018 災害用井戸・湧水の活用に向けた「災害時地下水利用ガイドライン」について
／内閣官房 水循環政策本部事務局 参事官補佐
兼 国土交通省 水管理・国土保全局 水資源部 課長補佐 吉村 敏
- 023 治水機能の強化と水力発電の促進を両立するハイブリッドダムの取組
／国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 流水企画室／治水課 事業監理室
- 029 ICHARM における流域治水を支える研究開発
／国立研究開発法人土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM)
特別研究監 古本 一司
- 033 流域水害対策計画 ー大和川における先進的な流域治水の取組みー
／国土交通省 近畿地方整備局 大和川河川事務所 流域治水課 課長 内藤 秀弥
- 041 上下水道政策の基本的なあり方検討会 第2次とりまとめの方向性
～「複数自治体による事業運営の一体化」と「集約型・分散型のベストミックスによる施設の最適配置」～
／国土交通省 水管理・国土保全局 上下水道企画課 (上下水道審議官グループ)
企画専門官 見正 大和
- 048 「かわまちづくり」の現状と最近の取組
／国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 課長補佐 寺田 勝一
- 054 指標種を活かした生物多様性保全と地域振興の好循環
～石狩川流域における生態系ネットワークの取組～
／国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 流域治水対策専門官 林田 寿文
特定治水事業対策官 唐澤 圭
河川計画課 伊藤 五月
- 060 さいたま水と生きもののプランの策定について
／さいたま市 環境局 環境共生部 環境対策課

行政情報

- 065 令和8年度 土木工事標準歩掛の改定概要⑥
／国土交通省 大臣官房 参事官 (イノベーション) グループ 施工企画室

本誌を読み、学習することは「土木学会」、「建設コンサルタンツ協会」のCPD教育制度の「自己学習」に該当します。単位の取得につきましては、申請する各団体により異なりますのでご確認ください。



表紙写真

「大雨の後で」
撮影者：横山 彰
(香川県)
撮影場所
香川県大野原町
豊稔池ダム

この写真は、一般社団法人建設広報協会主催、国土交通省後援、「豊かで住みよい国づくり」フォトコンテストの特選作品です。

ティールーム

- 083 最近、思うこと ～何だかよく分からないが…～
／全国生コンクリート工業組合連合会 東北地区本部 事務局長 相馬 広志

自治体の取り組み

- 084 「青森ゆきみち DX」による豪雪を踏まえ進化させる雪対策
～デジタル技術・AI 活用による徹底した見える化と持続可能な除雪体制の構築～
／青森県 県土整備部 道路課
- 090 埼玉県における「下水道管路マネジメントシステムの共同研究」の取組について
／埼玉県下水道局 下水道事業課長 橋本 翼

日建連表彰 2025 第6回土木賞

- 092 日比谷線虎ノ門ヒルズ駅設置に伴う土木工事

インフラテクコンレポート

- 094 「避難所リアル宿泊体験 ～“想定外”を“想定内”に～」の地域賞受賞にあたって
／長岡工業高等専門学校 環境都市工学科 助教 小澤 広直
同 教育研究技術支援センター 技術専門職員 込山 晃市
- 098 BAMBOO de GOOD JOB!!
／石川工業高等専門学校 環境都市工学科 教授 津田 誠
- 103 smartile ～点字ブロックの新たな形～
／東京工業高等専門学校 4年電気工学科 森村 桂大, 5年電気工学科 辻 頼杏
5年電気工学科 鳥羽 嵩滉, 4年機械工学科 久保 満寛

告知

- 006 [全国高等専門学校] 第7回 インフラマネジメントテクノロジーコンテスト 2026
- 108 運輸デジタルビジネス協議会 e建機[®] チャレンジ 2026
- 110 第29回 日本水大賞
- 112 身辺帳



品質で選べば
朝日フェンス



流域総合水管理のあり方について

国土交通省 水管理・国土保全局
河川計画課 大道 一步，水資源部 水資源計画課 柴田 伸亮

1. はじめに

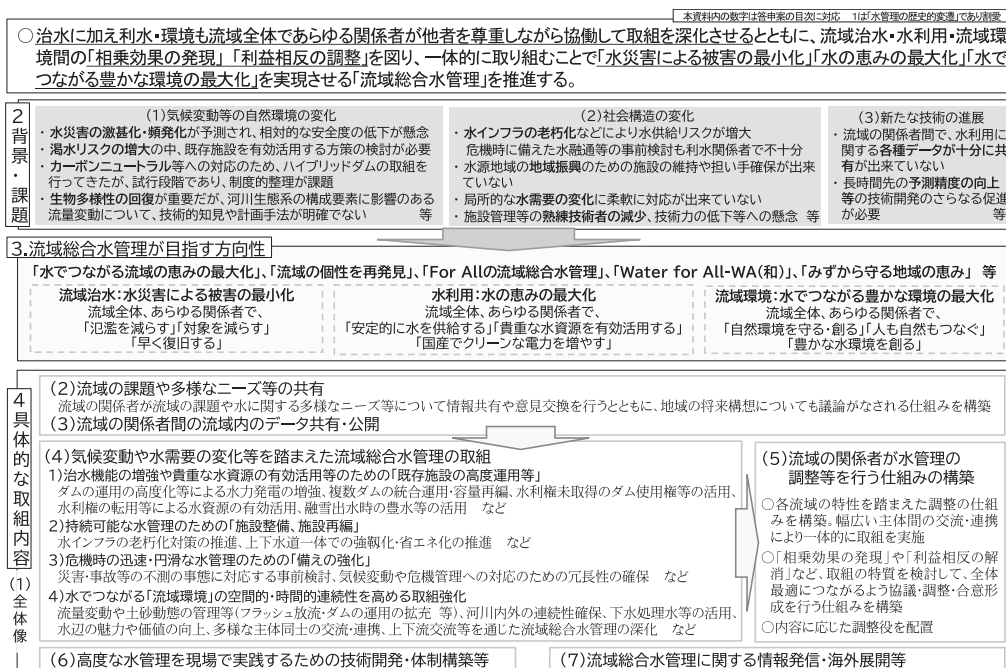
「流域総合水管理」については、2025年6月に国土審議会に設置された流域総合水管理のあり方検討部会及び社会資本整備審議会に設置された同小委員会の共同開催により答申が取りまとめられた（図－1）。

本稿では、その答申より、「流域総合水管理」に取り組む背景・課題、「流域総合水管理」が目

指す方向性及び具体的な取組内容について紹介する。

2. 「流域総合水管理」に取り組む背景・課題

水を巡っては、近年、対応すべき課題は多様化かつ深刻化している。水災害の激甚化・頻発化については、気象庁によると、極端な大雨の発生頻度は1980年頃と比較しておおむね2倍程度に増加しており、今後の日本付近の台風については強



図－1 「流域総合水管理のあり方について」答申 概要